2014年 春号
Vol. 34
—季刊年4回発行—

私たちは、いつもココロでつながっている。
さあ！みんなで世界へふみ出そう!!

NEWS Letter

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA
あだたら

特集

Contents

スポーツの力で世界を元気に！
—Sports can change the world—

P3 イベントレポート・VOICE
P4 現地レポート「From キルギス」

JICA Volunteer

スポーツの力で世界を元気に！

Sports can change the world

2014年、FIFAワールドカップがブラジルで開催され、2020年には東京オリンピックが日本で開催されることが決定された今、スポーツを通して日本が、そして世界が盛り上がりを見せています。そこで、今号のあだたらでは「スポーツと国際協力」をテーマにスポーツの持つチカラについて考えていきます。また、特別寄稿として、今年のソチパラリンピックで見事な活躍を見せてくださった猪苗代町出身の鈴木猛史選手より読者の皆さんへメッセージを頂きました!

ふくしまFM公開収録「北澤豪スペシャルトークショー」開催！

観客と掛け合いをしながら、終始和やかにトークショーは進みました。

去る3月15日、郡山市のビッグアイにて、元サッカー日本代表でJICAオフィシャルサポーターである北澤豪さんをゲストにお招きしスペシャルトークショーを開催しました。今回のトークショーはふくしまFMにて放送中の「キミノチカラ、海をこえて～青年海外協力隊の道～」の公開収録として行われ、リスナーの中から抽選で100名が招待されました。

6月にはサッカーのワールドカップが開幕となることもあり、まずは北澤さんから試合の見どころや注目の選手の解説があり、ふくしまFMのアナウンサー・加藤漢太さんとサッカー談義に花を咲かせました。

そして話はスポーツを通した国際協力について。ここからは、もう一人のゲスト・青年海外協力隊 平成 21 年度第 1 次隊の体育隊員としてシリアで活躍された金崎さおりさんを迎えてのトークとなりました。金崎さんは、シリアのパレスチナ難民キャンプ内の小・中学校で子供たちに体育を教えておられたのですが、北澤さんも JICA のサポーターとしてシリアに行かれた経験があり、二人は難民キャンプの様子や、そこで出会った人々とのエピソードを踏まえながら、スポーツの持つチカラについて熱く語りました。

ご自身が世界を舞台に活躍されてきた経験や、各国での支援活動を通じて「スポーツはフラット」だと語る北澤さん。「お金を持っていても持っていなくても、背が高くても低くても、勝手も負けても…そこにいるのは“敵”ではなく“相手”なんです。相手がいなければ試合できない。」と、スポーツを共に楽しむことにおいて国籍や格差は関係ないのだと伝えました。金崎さんも、「それぞれの良いところや問題点、お互いの違いを認め合うことが大切。スポーツは宗教や文化を越えたコミュニケーションのひとつ」なのだと、スポーツを通した世界平和への思いを語りました。

金崎さんはシリアの民族衣装を着て登場。北澤さんと、スポーツを通した世界平和への熱い想いを語り合いました。

特別寄稿「挑戦することは自分の自信につながる」

ソチパラリンピック メダリスト
駿河台大学 職員
チェアスキーヤー

鈴木 猛史 選手

2013年12月にアメリカで行われた「ノルアムカップ」のレースの様子。今大会では、回転（左の写真が回転）で優勝を果たした。ソチパラリンピックでの表彰台に手応えを感じたレースだったと振り返る鈴木選手。

初めまして、私は福島県猪苗代町出身で、駿河台大学で大学職員をしております鈴木猛史と申します。

私はチェアスキーでアルペンスキー競技をしています。チェアスキーをする私は、小学校2年のときに交通事故で両足を失いました。私は、このチェアスキーに小学校3年生から乗り始め、今では9年前のトリノパラリンピックから3大会連続出場するまでになり、最近ではソチパラリンピックで回転金メダル、滑降銅メダルを獲得しました。

両足のない私がなぜここまで頑張れたか、という声を聞くことがあります。私にとって、この回答は「やってみなきゃ分からない」の一言に尽きます。いたってシンプルな回答になっていますが、もともと色んなことにチャレンジしてみるという「挑戦心」を常に持っているからだと思います。足がないから出来ないでしょと思われても、こうすれば出来るんじゃないかなと考えて挑戦し、出来たら出来たで良い、出来ないなら出来なかったで良いのです。やらずに「分からない」ということは、とても後悔が残るからです。

やってみようと思ったら「やってみる」。この一歩が今後の挑戦心を育むだけではなく、やってみて分かったことから周囲へのコミュニケーション力、協調性が生まれてくるものだと考えています。

ぜひ、皆さんもやってみたいと思ったら「やってみましょう」。

同じく「ノルアムカップ」での一枚。大回転の様子。

スポーツ隊員を倍増します！

青年海外協力隊員だった頃の北野所長（右）。
モルディブオリンピック委員会会長さんとの一枚。

JICA二本松訓練所
所長 **北野 一人**

『オリンピックの遺産とは、建築物ばかりをいうのではない。それは、グローバルなビジョンをもつことだ、そして、人間への投資をすることだと、オリンピックの精神は私たちに教えました。だからこそ、その（1964年の東京五輪の）翌年です。日本は、ボランティアの組織を拵えました。広く、遠くへと、スポーツのメッセージを送り届ける仕事に乗り出したのです。以来、3000人にも及ぶ日本の若者がスポーツのインストラクターとして働きます。赴任した先の国は80を超える数に上ります。働きを通じ100万を超す人々の心の琴線に触れたのです。』

これは昨年9月ブエノスアイレスで行われたIOC総会での安倍首相のスピーチの一部です。先の東京五輪の遺産として出発した青年海外協力隊事業は、2020年の東京五輪の準備にも貢献することになりました。スポーツ分野の隊員派遣人数を倍増し、途上国のスポーツ振興に力を注ぎます。私自身もスポーツ隊員としてモルディブでの活動経験があります。1988年のソウル五輪はモルディブにとって初の五輪参加となり、その選手団の中には私の教え子も混じっていたのです。日本には世界に誇れる文化や技術がたくさんありますが、スポーツ分野での貢献も世界から期待されています。

EVENT REPORT

新企画「おいしく学ぶ、世界の暮らし」がスタート!

イベントレポート1

タイ国の生活や文化について語る金山忍さん(21-4/タイ/陶磁器)

二本松訓練所は、今年12月で開所20周年の節目を迎えます。これを期に、更にたくさんの方に二本松訓練所を知っていただきたい、訓練所に足を運んでいただきたいという思いのもと、今年度から新企画「おいしく学ぶ、世界の暮らし」というイベントを開始しました。これは、世界の国々の食事を味わいながら、その国で活動してきた青年海外協力隊の話を聞くというランチ学習イベントです。

記念すべき第1回目が4月にタイ国をテーマに開催され、三春町で陶芸家として活動されている金山忍さんを講師としてお迎えしました。初回にも関わらず、定員を大幅に超える申し込みがあり大盛況のうちに幕を閉じました。昨年度末には、この企画のお披露目会が開催され、新野洋二本松市長をはじめとした関係各者様にご出席頂き高い評価を得ました。今年度中は、2か月に1回のペースで開催してまいります。

「朝河桜」お花見会

イベントレポート2

朝河桜の下で即興ライブを楽しむ訓練生たち

5月4日(日)に、二本松訓練所開所以来初となる市民を交えたお花見会を敷地内で開催しました。お花見会の主役となった桜は、訓練所の中庭にある「朝河桜」です。この桜は、二本松が生んだ世界的歴史学者・朝河貫一博士が、現・福島県立安積高等学校時代に、毎日辞書を2ページずつ暗記したら食べるか捨てるかして、最後に残ったカバーを桜の根本に埋めたというエピソードに由来し名付けられたものです。訓練所の朝河桜は、「にほんまつ地球市民の会」より"朝河貫一博士のように勉学に励み、世界平和のために活躍してほしい"との思いを込めて贈られました。また、昨年度は二本松訓練所の卒業生が一万人を突破したことを記念し、朝河桜の記念碑を設置しました。

今回は、訓練生とにほんまつ地球市民の会をはじめとした二本松市民、訓練所スタッフ合わせて約200名が一堂に会し交流を深めながら、晩春の桜を楽しみました。

VOICE
ボイス

福島大学 経済経営学類
教授 佐野(さの) 孝治(こうじ)さん

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援してくださっている県内の皆様にインタビューし、JICAボランティアとのエピソードや期待・エールをうかがっていきます。
第5回目は、ご自身も学生の頃に青年海外協力隊の受験を考えたこともあるという福島大学の佐野孝治さんにお話をうかがいます。

―先生はいつから福島大学にお勤めされているのですか?

95年の4月からなので今年で19年目になります。地元の福井にいる時間より長くなりましたね。

―大学ではどのようなことを教えていらっしゃるのですか?

「開発経済学」と「経済政策」を教えています。開発経済学は、発展途上国の発展や経済成長、社会開発について経済的な手法で考えるという学問です。途上国の現実をきちんと理解して、共感を持って自分の頭で考えてもらいたいというのが趣旨です。経済学以外の手法でも途上国のために出来ることはあると思うので、そういうことをできるだけ幅広く教えたいと思っています。より実感を持って考えてほしいということで、現場で向き合ってきたJICAの方をゲストスピーカーとしてお招きしてお話をして頂いています。経済政策の方は、もう少し日本に限定した内容になりますね。

―先生ご自身が大学生の時にも途上国の問題に興味があったのですか?

学生だった1983年にアフリカ・エチオピアの飢饉、飢餓の問題が起きていました。その頃、アフリカには行けなかったのですが、自分でもタイやマレーシアなどのアジアの国々に行っていました。経済成長は見えるけれど、貧困や人権問題が取り残された現場を目の当たりにして、一生をかけて途上国の開発に関わる仕事がしたいと思うようになりました。協力隊になることもその当時は考えていましたね。大学の学園祭で、ゼミのテーマとしてアフリカの飢饉の問題を取り上げたのですが、これまでの経済開発のあり方が問題になっていることを知り、様々な国際的な支援が入っているけれど、毎回同じようなことが繰り返されている現状を変えるためにも、「システム自体を考えないといけない、そのためにも研究をきちんとやらなければだめだ」と思いました。

―そんな佐野先生のゼミは毎年とても人気だとお聞きしましたが、いったいどんなゼミなのですか?

目的を自分たちでみつけて、それに向かってスケジュールを決めてどうやって活動していけばいいのか考える、自分の力でやっていくというゼミです。3年生は全員海外でフィールドワークを行います。行き先は学生達が自分たちで決めるのですが、行きたい国ややりたいことをプレゼンテーションして相手を説得するところから始まり、訪問先のアポイントも自分たちでとります。そうして、今年はバングラデシュに行くことになりました。

―学生さんが全て企画・手配するとなると大変かと思いますが、何か失敗談もあるのですか?

訪問先の企業の前に行ってみたら、「聞いていない」と言われて立ち尽くしたり…。引継ぎがされていなかったみたいなことが何回かありましたね。

―どういった思いで送り出しているのですか?

グローバルで考える、それも先進国だけではなくて、開発途上国で一生懸命頑張っている人たちを見ることによって、自分にフィードバックして、これからの人生を歩んでもらいたいなという風に思っています。何かを得るには、途上国から学ぶことが一番良いと思います。実際に参加した学生たちは、目的を持って、一生懸命に生きるようになりましたね。もっと勉強したい、といって留学をする学生もいますね。

―学生には卒業したらどんな人になってほしいですか?

夢を見続けられる人でいてほしいです。人生って長いので、漠然としていてもいいので、いくつになってもその夢に向かって行ける人になってほしいな。

―そんな先生自身の夢は?

僕は「一隅を照らす」という言葉が好きなんです。一隅を照らして自分の出来ることでいいから世の中をちょっとでも明るくするような人になりたいというのがポリシーです。

―最後に、「世界を担う」若者たちにメッセージを!

リーダーではなくファシリテーターであってほしいです。夢を持ってそれにむかって努力し、自分で道を切り拓いてください。

昨年のインドネシアでのフィールドワークの様子

先生のもとで学んだ学生さんが、日本も世界も元気にする人となることを期待しています。ありがとうございました!

JICA ボランティア

現地レポート

福島県出身

from Kyrgyz Republic

キルギス

平野（ひらの）さやかさん

平成24年度3次隊

出身地：相馬郡飯舘村出身

派遣国：キルギス

職　種：日本語教師

▲祭りの時に撮影したキルギスの馬

中央アジアに位置するキルギスは、かの玄奘三蔵がインドへの旅の途中に通過した国でもあります。遊牧民のキルギス人を始め、ウズベク人、ロシア人、ウイグル人、ドンガン人など、いろいろな民族の人々が暮らしています。田舎に行けば馬に乗ったり、ユルタ（遊牧民のテント）に泊まったり、鷹狩りを見たり、遊牧民の文化を見ることができる一方、首都であるビシケクはソ連時代に建てられた建物が多く、ヨーロッパ的な雰囲気があります。キルギスの見どころは、何と言っても山や湖といった「自然」です。「天山の真珠」と称されるイシククル湖は、ロシアのバイカル湖に次ぐ透明度を誇る美しい湖です。水平線の上に対岸の雪山が見える景色はとても幻想的です。私自身はビシケクから1年中見える雪山がとても気に入っています。

▲ベシバルマックというキルギス料理（麺）は指を使って食べる習慣があります。

私は今、首都ビシケクにある大学で、日本語教師をしています。中央アジアの他の国に比べ、キルギスには日系企業は少なく、就職に結びつきにくいこともあり、「日本ブーム」の頃に比べ、日本語の学習者は減っていますが、それでも日本文化に興味を持ち、日本へ留学する夢を持つ学生と日々切磋琢磨しております。日本の大学とスカイプで交流したり、「ものぐさ太郎」「浦島太郎」の劇をしたり、最近ではAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊ったり、いろいろなイベントがありました。

▲首都セントラルパークのお祭りの夜の様子。「マナス」という英雄の像があります。

早いもので、私の任期もあと半年。残りの時間も学生に「楽しい」と感じてもらえるような取り組みをしかけて行きたいと思っています！

▲伝統的な結婚式のパーティーの様子。

▲学生とゴミ拾いのボランティアをしました。

▲JapanArtMileというプロジェクトに参加し、日本の大学と一緒に絵をかきあげました。

福島にゆかりのあるJICAボランティア

平成26年度1次隊（2014年6月下旬出発）
①出身地　②派遣予定国　③職種

青年海外協力隊
大川（おおかわ） 裕司（ひろし）さん
①相馬市
②ボリビア
③青少年活動

相馬市では、被災校でスクールカウンセラーとしてお世話になっておりました。ちょっとしたきっかけで海外に行くことになりましたが、結局同じ地球に生きています。今、目の前にあることに一生懸命になりつつ、理想の日本や世界を考えつつ行動することは、どこにいても変わりません。お互いに幸多くありますように。

青年海外協力隊
金澤（かなざわ） 拓也（たくや）さん
①白河市
②ナミビア
③PCインストラクター

1人で海外を旅行するのが好きで、様々な国を周っているうちに旅行とは別の形でもっと現地の人と深く関わり合いたいと思うようになり、青年海外協力隊に応募しました。任地では、終わってから自分の経験を自信を持って周りに伝えていけるような活動を行いたいと思います。

青年海外協力隊
菊地（きくち） 直樹（なおき）さん
①伊達市
②ボリビア
③小学校教育

一昨年度JICA二本松の教師海外研修に参加しました。現地で活躍する隊員さんや、笑顔で話しかけてくる子ども達と触れ合い、勇気とたくましさを感じました。そんな姿を見て自分もいつかその土地に移り、途上国の力になりたいと思いました。自分を支えて下さっている多くの方に感謝し、少しでも現地の子ども達を笑顔にできるようがんばります。

青年海外協力隊
後藤（ごとう） 祥与（さちよ）さん
①福島市
②フィジー
③栄養士

学生時代より興味のあった青年海外協力隊。未だに多くの課題を抱える福島を離れて良いものか迷いました。そんな中で後押しして下さる周りの方々、海外でボランティアする余裕のある環境に、本当に感謝しています。2年間の活動を通し、新たな視点を取り入れて、還元出来るよう尽力してきたいと思います。One step at a time.

青年海外協力隊
鈴木（すずき） 守（まもる）さん
①いわき市
②フィリピン
③コミュニティ開発

現地の社会に入って、現地の人と共に生きて、四苦八苦しながら活動を行うJICAボランティア。好奇心旺盛な私には魅力的なものでした。人とコミュニケーションをとりながら、いろいろなことを学ばせてもらって、多くの人と協力しながら、地道な活動ができれば良いなと思っています。

青年海外協力隊
年野（としの） 朋美（ともみ）さん
①会津若松市
②インドネシア
③保健師

幼いころから国際協力への興味はありましたが、その思いが具体化して数年。現在、訓練中です。任地での活動で、私は黒子に徹し、主役である住民の方々を中心に据えて保健医療活動を促進していきたいと思います。東北の復興もまだまだ途上ですが、帰国後は、自分のこの経験が巡り巡って日本の誰かの背中を押せるような活動をしていきたいです。

青年海外協力隊
松山（まつやま） 幹弘（みきひろ）さん
①会津若松市　②ウガンダ
③PCインストラクター

夢だった青年海外協力隊のスタート地点に立てたことに喜びを感じています。70日間の訓練では語学を中心に一回り成長し、自信を持って任地に旅立ちたいです。任地の方々のため、自分自身の成長のため、そして応援してくださる方々のために精一杯頑張ります。私の活動で少しでも福島を元気づけることができれば嬉しいです。

2014年5月31日現在　合計派遣中30名／累計671名

青年海外協力隊			
派遣中	29	累　計	607

シニア海外ボランティア			
派遣中	2	累　計	44

日系社会青年ボランティア			
派遣中	0	累　計	10

日系社会シニアボランティア			
派遣中	0	累　計	5

福島県出身ボランティア

市町村別派遣中隊員数

着任のお知らせ

国内協力員
中嶋（なかじま） 哲也（てつや）

全世界72億人のうち、22億人の15歳以下の子供がいて、4.5億人が飢餓、栄養不足に苦しんでいます。日本は計算すると一人当たり年間171kgもの食べ物を捨てています。（世界1位）この現実を見て少しでも「なんとかしなきゃ」と感じ、直接海外で人々を支援したいと思った方々をJICAは支援しています。

1人でも多くの人にこの事実を知っていただき、1人でも多くの人へ救いの手を差し伸べてください。皆様の青年海外協力隊・シニア海外ボランティアへのご応募、お待ちしています。

業務課長
福田（ふくだ） 義夫（よしお）

初めまして、福田です。世界で一番新しい独立国、アフリカにある南スーダンの地方都市で働いていましたが、武力衝突が発生し、任期途中で避難帰国し、4月に着任しました。これまでいたところは、ワニやカバがいるナイル川のほとりでしたが、今回、安達太良山の中腹にある訓練所勤務となり、新たな気持ちで仕事に取り組んでいます。訓練所の業務は、その名にある訓練に限らない幅広い業務を行っていますが、地元福島県にも貢献出来るよう事業を展開していきますので宜しくお願いします。

6月～7月 イベントカレンダー

- 6月18日　平成26年度第1次隊 修了式
- 6月26日　おいしく学ぶ、世界の暮らし ～モロッコ編～
- 7月1日　平成26年度第2次隊 入所式

ラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook

これ、なんの訓練？ 答えはJICA二本松のFacebookページをご覧ください！
（2014年5月21日 投稿）

ほぼ毎日、更新中！
https://www.facebook.com/jicantc

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて
～青年海外協力隊の道～

世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷりうかがいます。

毎週土曜／8:30～8:55

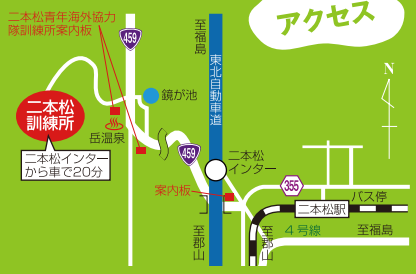
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ

二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分！

第2木曜／13:00～14:00
（再放送：第3木曜/13:00～14:00）

アクセス



発行元
独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200　Fax :0243-24-3214
●本誌に関するお問合わせ
JICA福島デスク　担当:八巻(やまき)　Tel:024-524-1315　Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2ー1（公財）福島県国際交流協会内